

# ライトウィングプレーヤーのオフENSEスにおける貢献

## —男子世界レベルと自身を比較して—

朝野 暉英 (202010800、ハンドボールコーチング論)

指導教員：山田 永子、會田 宏、藤本 元

キーワード： オフENSEス参加、シュート局面、フェストブレイク

### 【目的】

本研究では、オフENSEスにおいて、世界トップレベルの左利きライトウィングプレーヤー（以下、世界トップとする）が、どのようなプレーでチームに貢献しているのかを明らかにする。そしてそれらと、自身のプレーを比較することで、自身の夢である世界で活躍するウィングプレーヤーになるための課題を明らかにすることを目的とする。

### 【方法】

本研究では、世界トップとして Gómez、Ekberg、Moryto の 2021～2022EHF チャンピオンズリーグの試合、それぞれ 17 試合、日本学生朝野は、2022 年および 2023 年関東学生連盟秋季リーグ、2022 年および 2023 年関東学生秋季リーグの 17 試合を分析対象試合とした。すべてのプレーヤーにおいてオフENSEス局面 1000 シーンを抜き出し、そして項目別のシーン数を算出した。3 名とも、2021～2022 年に行われた EHF チャンピオンズリーグにおけるベスト 4 以上のチームに所属し、それぞれのチームにおいてスタートメンバーであった。

まず、オフENSEス局面においてボールを保持したかどうかを記録した。次に、オフENSEスをファストブレイクとセットアタックに分け、ファストブレイクは 1 次、2 次、3 次に分けて捉えた。セットアタックは、ポジショニング局面、オープニング局面、突破局面、継続局面、シュート局面の 5 局面に分けて捉えた。それぞれの局面における、オフENSEス参加について詳細に記録した。

統計処理は、選手ごとにカイ二乗検定を用いて比較の差を検定した。危険水準 5% とした。

### 【結果】

#### （1）オフENSEス局面でのボール保持

世界トップ 3 名および朝野は、ボール保持なしがボール保持ありに比べて有意に多かった。

#### （2）ファストブレイクの種類

Gómez、Ekberg は、有意差がなかった。Moryto、朝野は、1 次がその他に比べて有意に多かった。

#### （3）ポジショニング局面

世界トップ 3 名および朝野は、RW 世界トップ 3 名および朝野は、RW が有意に多かった。

#### （4）オープニング局面

世界トップ 3 名および朝野は、ウィング切りがその他の項目に比べて有意に多かった。

#### （5）突破局面

世界トップ 3 名および朝野は、突破なしが 100% だった。

#### （6）継続局面

世界トップ 3 名および朝野は、ボール保持なしが有意に高かった。ボール保持ありの場合には、継続時のパス方向に関して、利き腕側、非利き腕側の 2 つに分けて記録した。世界トップ 3 名および朝野は、利き腕側が有意に多かった。

#### （7）シュート局面

Gómez は、7m スロー、ウィング、ブレイクスルーが、エンブティに比べて有意に多かった。Ekberg は、7m スローおよびウィングがエンブティ、ブレイクスルーに比べて有意に多く、またブレイクスルーが、エンブティに比べて有意に多かった。Moryto は、7m スローがエンブティ、ブレイクスルー、ウィングに比べて有意に多く、またブレイクスルーおよびウィングが、エンブティに比べて有意に多かった。朝野は、ウィングが 7m スロー、エンブティ、ブレイクスルーに比べて有意に多く、またブレイクスルーおよび 7m スローが、エンブティに比べて有意に多かった。

### 【考察】

世界トップ 3 名は、オフENSEス参加が約 20% であり、ポジショニングに関しては、RW が約 80% であった。セットアタックにおいて、オープニング局面に関しては、世界トップ 3 名はウィング切りが有意に高かった。ウィングプレーヤーには相手ディフェンスを揺さぶり、バックプレーヤーにチャンスを作るような貢献が求められていると考えられる。

### 【結論】

世界トップの左利きライトウィングプレーヤーは、オフENSEスにおいてボールを保持する、またはオープニング局面に関わる割合は全体の 20% である。オープニング局面の半分以上がウィング切りである。セットアタックの突破、継続はほぼ関わっておらず、主に最終プレーであるシュートを任されている。自身の課題としては、ファストブレイクにより関わること、およびウィングエリアのシュート成功率を上げることである。